

St. Luke's International University Repository

24th Research Conference of St. Luke's Society for Nursing Research: Symposium

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2021-03-13 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 奥, 裕美 (座長), OKU (Moderator), Hiromi メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.34414/00015340

This work is licensed under a Creative Commons
Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0
International License.



学習者からみた聖路加国際大学 DNP コースにおける Implementation Research

座長：奥 裕美

本大会は、実践の場に根差した新たな研究方略を探索する、Implementation Research をメインテーマとして開催された。そして本シンポジウムは、Implementation Research に基づくプロジェクトの実施を修了要件とする聖路加国際大学大学院博士後期課程 DNP (Doctor of Nursing Practice) コース開講の経緯についての教育講演に引き続き、大会を締めくくるセッションとして実施された。

シンポジウムでは、DNP コース第1期生(10人)を代表した3人がシンポジストとして登壇し、それぞれが行うプロジェクトの実際を発表した。

1人目の登壇者である小山美樹氏は、専門看護師としてエビデンスに基づくプロトコルを現場に導入するプロジェクトの実施にあたり、チームメンバー、特に管理者との協働の重要性を中心に発表した。2人目の関根小乃枝氏は、国の行政機関という特殊な現場で働く看護職を対象とした教育プログラムの導入にあたり、状況に合わせて方法を改善したプロセスについて発表した。そして最後の登壇者である柳村直子氏は、プロジェクト進行中

に組織の方針や意志決定者の変更があり、博士課程の在籍期間という時間的制限があるなかで、プロジェクト実施への理解を得て、開始に至るまでの経験を発表した。

会場との質疑応答のなかでは、3人がDNPコースで身につけたと思える力はなにか、コースそのものの課題、そして看護管理者の立場でImplementation Researchに取り組むスタッフをどのようにサポートすることができると思うか、といったことについて質問があり、3人のシンポジストから率直な思いが伝えられた。また、近い将来プロジェクトを論文として発表する際、Implementation Researchの内容を理解し、公表できるジャーナルを探しているという未来志向の発言もあった。

わが国の看護界においてImplementation Researchはまだ黎明期にあるといえる。そのようななか、本シンポジウムは先駆者の貴重な挑戦を伝えるものであり、これからの普及と発展への期待を感じる有意義な内容であった。